



# みす和夫 市政レポート

市民の皆様のご意見・ご要望をお聞かせ下さい 発行/千葉市議会議員 みす和夫事務所 千葉市緑区誉田町2-21-1189 ☎291-1086

ホームページもご覧下さい。   メール [misu@misukazuo.jp](mailto:misu@misukazuo.jp)



## 昨年11月8日～12月17日まで開催された第4回定例会市議会におきまして質問しましたので報告いたします。

平成7年4月の初当選以来、24回目の一般質問を行いました。  
私も中小企業を経営する身。景気回復の実感はまだありませんが市内の工事を増やし、産業の健全な発展を目指しての質問いたしました。また緑区の街づくり、住みよい環境づくりのため、皆様の声を活かしながら、今後尚一層努力をして参ります。

千葉市議会議員 **みす 和夫**

## 平成26年第4回定例会(12月)報告

### ①公共工事について



**質問① 「JV方式」の発注基準額について**  
首都圏の政令市の状況と発注基準額の引上げについて

財政局長  
答弁

まず、首都圏の政令市における「JV方式」の発注基準額の状況は、建築工事を例に挙げると、千葉市は設計金額2億円以上、横浜市は7億円以上、相模原市は6億円以上、川崎市は5億円以上となっている。  
また、さいたま市は基準額を設定しておらず、個別に審査会で決定している。  
次に、「JV方式」の発注基準額の引上げについてだが、発注基準額については、経済状況や発注件数などを踏まえ、適宜、見直しを行っており、直近では、平成25年度に、建築工事と電気・管工事において、発注基準額の引き上げを行ったところ。発注基準額のさらなる引き上げについては、入札の競争性の向上や談合等の不正防止はもとより、地元企業の受注機会の確保や技術力の向上の観点から、対応を検討していく。



**質問② 入札参加資格の地域要件の細分化による工事の発注件数と不調件数及び落札率について**

財政局長  
答弁

入札参加資格の地域要件の細分化による、工事の発注件数と不調件数及び落札率については、平成25年度の地域要件の細分化を適用した工事件数は、道路工事が20件、下水道工事が11件、舗装工事が23件で、合計54件であり、うち不調件数は9件。  
また、細分化を適用した工事の落札率は、平均約87.5%となっており、細分化しない工事の平均約87.2%とほぼ同等であり、入札の競争性は確保されているものと考えている。



### 要 望

現在、建設業者を取り巻く状況は、公共工事の減少、団塊の世代の熟練工の退職により、工事に従事する職人の数が減っている。  
一方で、東日本大震災からの復旧工事や自公政権による経済対策などで、建設工事の発注が増えたことに伴い、今度は、工事現場の人手不足から受注困難となり、入札不調が多発している状況だ。  
建設工事については、その時々政権の意向などで発注量が不安定となっており、このため、業界全体の健全な発展にもつながっていない。  
現に、地元で建設業を経営する方達が、子供に後を継がせることを躊躇している。あるいは、工業高校へ進学する若者が年々減少しているという話も聞いている。  
建設業に、次世代の担い手となる若者が集まらないということは、慢性的な労働者不足となるほか、年配の熟練工から若者への技術の伝承にも支障が出るなど、地元企業の育成や工事品質の確保といった点から、大変深刻な事態であると受け止めている。  
このことから、当局におかれては、公共工事の発注量の平準化や、地元企業の経営の安定化に十分配慮していただきながら、今後も、より効果的な入札制度について検討していただくよう、強く要望する。

### ②千葉市の農業について



**質問① 農業後継者を確保・育成する事業について**

あととりスキルアップ研修の現状とさらなる充実に向けた今後の取り組みについて

経済  
農政局  
答弁

あととりスキルアップ研修の現状とさらなる充実に向けた今後の取り組みについては、農政センターでは、今年度から、市内の農業後継者の各種栽培技術の向上と、経営規模の拡大などを目指した「あととりスキルアップ研修」を実施している。  
実績としては、花き部門の研修で1名が、4月から8月までの5か月間にわたり、直売所で人気の高いトルコギキョウの栽培研修を受講され、現在、研修で習得した技術をもとに、自らのパイプハウスでトルコギキョウを栽培し、市内の直売所で切り花を販売している。  
また、今月からは、米作農家と露地野菜農家の後継者2名が、新たに取り組む作物として、トマトの栽培技術の習得に向けた研修を受講されている。  
今後も、高品質で所得向上に結び付く品目を選定するなど、あととりに魅力ある研修となるよう事業の充実に向けていく。



**質問② 緑区大野地区でのイノシシ被害に対する支援について**

市内でのイノシシの発生状況とイノシシによる農作物被害の現状について

農政部  
答弁

平成25年度に、緑区及び若葉区内の農地や山林で、イノシシの足跡(あしあと)を発見したとの複数の情報が寄せられたほか、千葉県道路公社からは、外房有料道路の大野料金所付近で、通行車両との衝突事故があったとの情報が提供されている。さらに、平成26年度には、緑区の越智町、大木戸町、板倉町の3地区の農家から、イノシシが出没したとの情報が寄せられている。  
また、農作物被害の現状については、千葉市鳥獣被害防止対策協議会の集計によると、平成25年度に、緑区でイノシシによる被害が発生し、いも類や野菜を対象とする被害額は、約16万円と報告されている。

イノシシ対策として、今後どのように取り組んでいくのか

経済  
農政局  
答弁

本市では、有害鳥獣による農作物被害が増加傾向にあることから、平成25年2月に「千葉市鳥獣被害防止計画」を策定し、ハクビシン、イノシシ、カラスなどを対象に、総合的な対策を、実施することとした。  
特に、イノシシ対策では、本市が平成25年12月に緑区内の山林に設置した、「イノシシを捕獲するための箱わなの管理を、「千葉市鳥獣被害防止対策協議会」に委託し、定期的な見廻りを実施するなど、すでに捕獲に向けた具体的な取り組みを開始している。  
なお、緑区の大野地区のイノシシ対策につきましては、平成26年度から実施することとし、現在、捕獲用箱わなや農地への侵入防止柵の設置に向けた準備と調整を行っている。  
今後とも、捕獲と侵入防止の両面で被害の軽減に取り組んでいく。